

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（4月）

留学先：ハンブルク大学

氏名： 片川 絵里奈

ハンブルクでは、湖のほとりや街の至る所で、様々な種類の桜を目にすることができます。やはり桜を見ると、「春が来た。」と感じます。その喜びを噛みしめるために、私は大学の友人と一緒に、何度もお花見をしました。ドイツでは天気の良い日に芝生の上に寝転んで日向ぼっこする人は多いですが、桜の木の下で座って、飲んだり食べたりする人はあまり見かけません。私たちの他にもお花見をしている人達がいる、と思ったときはほとんどが日本人で、日本人とドイツ人の、自然との付き合い方の違いが興味深いと感じました。



いよいよ夏学期スタート

先学期は B1 だったドイツ語のコースレベルを、今学期は B2 に上げました。

「Film ab!」という授業では、毎回ショートフィルムを観て、カメラワーク・音楽・セリフ等に注目し分析を行ったり、議論したりします。これまで映画は、情報化社会、ホームレス問題などを扱ったものがありました。授業は、映画鑑賞をし、直後に出されたテーマについて議論する形で進められます。意見を述べるためには「考えを即座にまとめ、ドイツ語で発信」しなければなりません。ですが今の私は、そもそもの日本語で思考する時間が長く、しかもその後でドイツ語の文章構造を間違えまい、と意識しながら発言内容を考えているので、なかなか議論の速さについていくことができず、悔しい思いをしています。

ドイツ語の授業以外にも「異文化理解」に関する授業を履修しています。この授業では「移民・難民・外国人」「教育」「政治」といったテーマについて日独の比較をし、それをもとにグループで議論をします。例えば「教育」がテーマの話し合いでは、ドイツの小学校教育では「議論をし、自分で意見を言えるようになる」ことが重視されているが、日本では「社会で生きるための人間性」を育むことを大事にしているのではないか、という意見が出ました。そして面白い事に、自国の学校教育に足りない部分を話し合ったときに、日本人学生は「自分の意見を言うこと」を上げ、ドイツの学生は「思いやりなどの人間性」を上げていました。教育に関しての問題は共通して存在しており、その解決の難しさを象徴していると思いました。

リレーマラソン

先月に予告していたイベントは、4月30日にデュッセルドルフで行われたマラソンのことです。私はマラソンが得意ではないのですが、縁があって福島県人会の方々にリレーマラソンへ誘われたことをきっかけに出場することになりました。そして参加することが決まってからの約4か月間、(ハンブルクはなかなかないですが)晴れた日はアルスター湖の周りを走って練習を重ねてきました。



本番当日は天候にも恵まれ、ライン川沿いを気持ち良く走ることができました。私の走る距離は11.3 kmで、約1時間の走りでした。辛いと思うときもありましたが、街並み、共に走るランナー、沿道で応援する人々を見て「私は今、住み憧れたドイツの地で走っている！」ということを楽しみながら、その喜びを力に変えて走りました。そして沿道からの応援も、力になりました。フライパンを叩いてランナーを鼓舞するおじさん、ランナーとハイタッチするための列を作る子ども達、沿道で演奏するバンドマン、などのユニークな応援を受けました。

以前は苦手なマラソンでしたが、一人で黙々と進んでいく感覚、仲間と走り切った達成感が心地よく、とても良い体験でした。これを機に走ることにハマりました。

留学中はよく「ここでしかできないことをせねば！」と思いつけることができるので、何かを始めるには絶好の機会です。そしてそこから得られる経験は自分の価値を変えてくれることが多いです。その思いつきをドイツ語使用場面でも発揮することができれば、今の伸び悩んでいる自分を変えることもできると感じているので、残りの留学生生活を悔いのないように過ごそうと思います。